

19 年連続で水質が日本一？
驚くようなこの数字が示すものは、
流れる水だけの話じゃない。
それを保つための
より広い流域環境の
素晴らしさに気づきたい。

こんなデータがあります。川辺川流域周辺では
9,000種以上の生きものが確認されていて、その中
には絶滅危惧種などが500種以上含まれています*2。
日本の国土の約 0.1%の面積にそんな多くの生き
ものが暮らしているなんて、なんだかスゴイことで
すよね。

川辺川の魅力は、その清らかな流れだけではあり
ません。水源の苔むす深い山々、古代より人の手で
守られてきた森林や田畑。川とその周辺の多様な
環境が、言わばパッチワークのようにつながって、
豊かな生態系と人々の暮らしを育んでいます。

川辺川の素晴らしさは、川とその周辺環境の素晴
らしさでもあるのです。

*1：2006-2025 年連続で「水質が最も良好な河川」に選定
（全国一級河川の水質現況（2025.7）国土交通省）による
*2：川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価レポートによる現地調査の確認種数の合計

19 年連続！*

水質、
日本一



橋から川にダイブする中高生もいるらしい... (珍しい)

大項目 8 項目	大気環境 水環境 土壌環境 動物
小項目 25 項目	植物 生態系 景観 人と自然との触れ合いの活動の場
大項目 8 項目	大気質・騒音・振動・水質・地形及び地質・哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類 陸上昆虫類・底生動物・クモ類・陸産貝類・種子植物・シダ植物・付着藻類・蘚苔類 大型菌類・上位性（陸域）・上位性（河川域）・典型性（陸域）・典型性（河川域） 特殊性（九折瀬洞）・景観・人と自然との触れ合いの活動の場
流域周辺の生きもの 約 9,000 種！	重要な種*1 約 500 種！

環境アセスメントのデータが
教材になる。

川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価レポート*2、
いわゆる環境アセスメントは、とても丹念に調査が行
われました。その緻密な内容は、治水事業の環境影
響評価・低減だけでなく、さまざまな方面に活かせる
可能性を秘めています。

例えば、地域に常に存在する観光や産業への活用、
環境教育の教材としては唯一無二の素材になりえます。

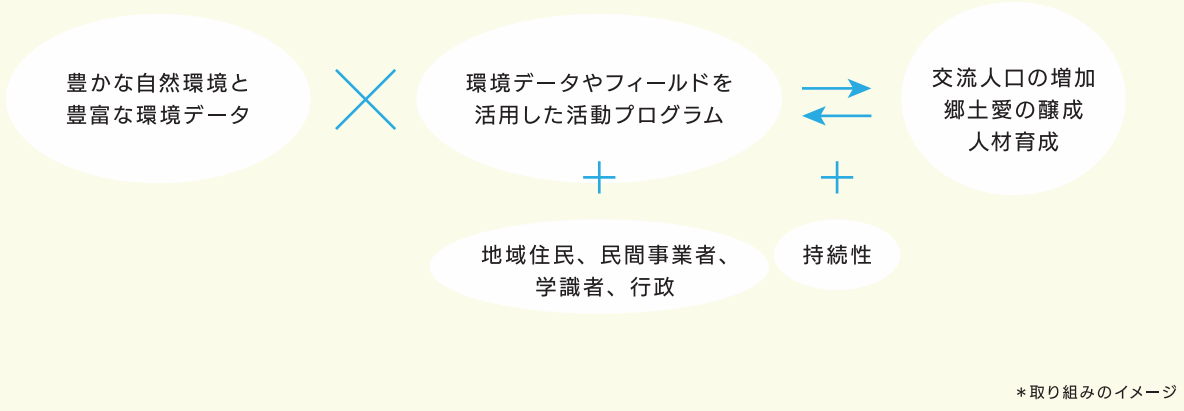
*1：環境省レッドリスト2020、レッドデータブックくまもと2019掲載の絶滅危惧種等
*2：川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価レポート（約 5,200P）

この環境データをみんなで活用できないか、
学びや地域活性化をキーワードに住民・民間
事業者・学識者・行政が手を結び、川辺川
ならではの環境を活かして、各種活動プログ
ラム（ソフト事業）と川へアクセスがしやすい仕
組みや施設整備等（ハード事業）の両面から、
持続的に取り組む活動の総称を「川辺川アカ
デミア」と呼ぶことにしました。



川 辺 川 ア カ デ ミ ア
KAWABEGAWA ACADEMIA

それぞれが価値を見つけ、
みんなで学びをつくる。
それを川辺川アカデミアと呼んでみる。



宝物って、決して遠くに隠れてるわけじゃない。
それはいつも足下にあるけれど、
それに気づかないだけなんだ。
わたしたちが、そのスゴさをちゃんと知り、
学び続けることを誓うなら、母なる川辺川は、
とても喜んでくれるに違いない。
肩ひじを張ることはない。
清く澄んで流れ続ける川辺川へ
出掛けることから始めればいい。
美しき川辺川とそのまわりを、
誰もが学べるみんなの学校にしようじゃないか。



川 辺 川 ア カ デ ミ ア
KAWABEGAWA ACADEMIA

こんなことを知っている、みんなでやったら面白そう、などと
これからのアカデミアを動かすために
いろんな視点をもった仲間が必要です。
興味がある方は下記の連絡先から
どうぞ気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先
国土交通省川辺川ダム砂防事務所(とりあえず)

川 辺 川 ア カ デ ミ ア
KAWABEGAWA ACADEMIA

2025年7月7日 第1版

川辺川は偉大な学校である。

川辺川アカデミア
開学に向けての
これまでの取り組み

川辺川とその流域のフィールドを利用した
体験や学びを進める中で、地域住民や学校
関係者へのヒアリングや合同現地調査等を行
い、期待や想いを把握してきました。

また、イベント開催時のアンケートやスタッフ間
の振り返り、先例地調査の結果等も踏まえな
がら、簡易な階段の整備など、すぐに出来る
実験的な取組を進めてきました。



いろんな声を集めた

体験活動やイベントに参加いただいた方々から
のご意見や、スタッフ同士の振り返り、他の地域で
の取り組み事例から学んだことなど、いろんな
声を集めました。

まずは、地元の子どもたちと
一緒にやってみた。

令和 6 年度から「川辺川アカデミア」の活動を実験的に
スタートさせ、小中学生の皆さんを中心に、川辺川をフィー
ルドにした体験学習（探究学習）を試行してきました

令和 7 年度は、学校の授業とも連携しながら、より発展
的な学習プログラムへと展開しています。



川の安全利用に向けた事前学習



水生生物採集



自分たちで問いを立てるグループワーク



成果発表



川へ安全に降りられる階段の仮設置

地域の方々との合同現地調査

川が学び舎だからこそ安全に。

川辺川をテーマに体験学習を行う上で何よりも大切な
のは安全に利用できることです。学びのフィールドとして
ポテンシャルがありそうな場所について、地域の皆さん
と一緒に調査を行い、どのように活用できそうか、どのよ
うな課題がありそうかを実際に使ってみながら検討を進め
ています。

川に安全に近づきやすいことはもちろん、起こりうる危
険を知っている人から安全な使い方を学ぶことも大切に
しながら、さまざまな活動を展開しています。

● 体験学習

小中学校での体験学習

地図の見方、川の地形から水生生物採集まで、現地での体験やグループワークを通じて学ぶプログラムを試行しています。

● 視察・意見交換

先例地の視察・意見交換

川やダムなどの水辺や自然を活かした取り組みの先例地にお伺いし、現地でしか聞けない・当事者だけが知る生の声を元に意見交換を行っています。

● 上下流交流

山、川、上流と下流をむすぶ流域交流の促進

同じ川でも上流の山地と下流の平野では、川との付き合い方や暮らしも異なります。そんな身近な川の違いを相互に体験する取り組みを試行しています。

● 地域イベント

地域イベントでの体験会

サップ体験や水質実験、安全な川遊び講習など体験を交えた地域イベントに参加し試行を続けています。

● 勉強会

行政職員・管理者の勉強会

流域自治体の職員や流域を管理する職員と現地での体験を交えた勉強会を実施しています。

川辺川やその流域をよく知る人と知りたい人たちと、アカデミアを作っていく。



全国の専門家や行政職員のみならず



地域住民のみならず、誰もが先生！



いろんなことが得意な
いろんな会社や民間事業者



川を愛してやまない
川辺川マニアたち

● 環境保全の現場と教育の連携

環境保全対策と教育の連携

工事予定箇所の合同現地調査や生物の避難救出活動など

● ブランドイメージ向上

川辺川ブランド維持・向上

川辺川由来の特産品開発や付加価値の科学的実証など

● 地域と一緒に

地域主体の利活用への推進

地域イベントでの河川活用や体験学習・観察会の開催など

● 地域外への発信

広報・情報発信の拡大

広報ツールの作成と活用や活動サポーターの募集など

川辺川は偉大な学校である

川辺川を活用した
環境教育プログラムの作成

川辺川流域の自然環境に関する
様々な知見や情報の提供

環境教育プログラム実践のための
学びのツールの作成

体験を重視したフィールドでの
環境教育の実施

科学的かつ
豊富な環境データ

協力者との連携、環境データの整理

河川管理者の支援
参加機会とフィールドの提供・整備

流域内外の
人材ネットワーク

積極利用へ

川辺川での学びと遊びを通して、
地域に誇りと愛着を持つ人材が育ちますように

地域の魅力向上や担い手育成、 豊かな自然環境との共生を目指す上で 考えていきたいこと

- ☐ 川辺川流域の豊かな自然環境と場（物理環境）の保全・回復・創出
- ☐ 川辺川ならではの特長
- ☐ 少子高齢化の進行・人口減少
- ☐ 流水型ダム・河川等の整備
- ☐ 川辺川が成す地形・地質の特徴
- ☐ 歴史・文化等の伝承
- ☐ 地域の生業・経済循環

川辺川の自然環境調査や さまざまな取り組みで得られた 豊富な情報と声を整理すること

- ☐ 川辺川の自然環境調査で得られた豊富な情報と活用ニーズの整理
- ☐ 川辺川ならではの生態系の特長
- ☐ 学校・教育関係者の声
- ☐ 地域住民・民間事業者の声
- ☐ 川辺川が成す地形・地質の特長
- ☐ 行政・河川管理者の声
- ☐ 先例地の事例と分析

“流域”で考える 川辺川アカデミアの フィールドキャンパスへ

- 教育プログラムに欠かせないネイチャーポジティブ*なフィールドづくりを実践します。
- 利活用の候補地を地域と協力して調査し、課題を見つけ、解決の具体策を提案します。
- 体験学習や地域イベント等で積極的に利用し、さらなる課題の把握や改善につなげます。

*ネイチャーポジティブとは、自然環境の損失を止めて回復させる取り組みです。生物多様性を保全し、森林や海洋の生態系を再生することで、2030年までに自然の豊かさを現在より増加させることを目指す重要な概念です。

